

# CARTE BLANCHE

カルト・ブランシュ ―期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画―

カルト・ブランシュ (Carte Blanche) とは、白紙委任状という意味のフランス語。最前線で活躍中の映画人や文化人が、フィルムセンターの日本映画コレクションから自由に作品を選定し、上映と解説を行います。フィルムセンターとエイベックス、ぴあフィルムフェスティバル (PFF) が共同で開催する学生のための特別イベントに、ふるってご参加ください。

第 1 回 2011年9月17日(土) 3:30pm-6:40pm

## ロード“サイド”ムービー

『さらば愛しき大地』 1982年、柳町光男監督  
134分・35mm・カラー

富田克也監督 (『国道20号線』『サウダダーチ』他) と

城繁幸氏 (人事コンサルタント、作家) がセレクト&対談解説



第 2 回 2011年9月24日(土) 3:00pm-6:00pm

## 男と女

『生きてるうちが花なのよ  
死んだらそれまでよ党宣言』 1985年、森崎東監督  
105分・35mm・カラー

河瀬直美監督 (『萌の朱雀』『残の森』他) がセレクト&解説

聞き手: 木下雄介監督 (『水の花』他)



第 3 回 2011年10月1日(土) 3:30pm-6:40pm

## インターナショナルな未来を綴る、 プロフェティック・ムービー

『スワロウテイル』 1996年、岩井俊二監督  
148分・35mm・カラー

VERBAL氏 (DJ、音楽プロデューサー) がセレクト&解説

聞き手: 窪田崇監督 (『イエスタデイズ』『キミとボク』他)



© SWALLOWTAIL PRODUCTION COMMITTEE

\*各日とも終了時刻は予定

会場: 東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター、エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社、ぴあ株式会社 / 企画協力: 株式会社 REALWAVE

N  
F  
C 東京国立近代美術館フィルムセンター  
National Film Center  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

avex  
music publishing

ぴあ

realwave

第 1 回 2011年9月17日(土) 3:30pm-6:40pm ロード“サイド”ムービー

『さらば愛しき大地』(1982年、柳町光男監督) 134分・35mm・カラー

富田克也監督(『国道20号線』『サウダーヂ』他)と城繁幸氏(人事コンサルタント、作家)がセレクト&対談解説

富田克也(映画監督)

1972年山梨県甲府市生まれ。高校卒業後、音楽の道を志し上京。音楽活動に出口を見いだせず映画を観まくる日々、いつしか映画を撮りたいと思うようになる。都内で配送業に従事しながら、処女作『雲の上』(2003年)を発表し、『映画美学校映画祭2004』の最優秀スカラシップ受賞。この賞金を原資に『国道20号線』(2007年)を製作。最新作『サウダーヂ』はロカルノ国際映画祭に正式出品、ユーロスペース他にて10月22日からロードショー。



城繁幸(人事コンサルタント、作家)

1973年生まれ、東京大学法学部卒。富士通を経て2006年よりJoe's Labo代表。人事制度アドバイザーのかたわら、雇用問題のスペシャリストとしてメディアで発言。2009年からは「ワカモノ・マニフェスト策定委員会」の一員として、世代間格差問題にも取り組む。著作に『若者はなぜ3年で辞めるのか?』(光文社新書)『3年で辞めた若者はどこへ行ったのか』(ちくま新書)『7割は課長にさえなれません』(PHP新書)等。



第 2 回 2011年9月24日(土) 3:00pm-6:00pm 男と女

『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』(1985年、森崎東監督) 105分・35mm・カラー

河瀬直美監督(『萌の朱雀』『殞の森』他)がセレクト&解説 聞き手:木下雄介監督(『水の花』他)

河瀬直美(映画監督)

『萌の朱雀』(1997年)でカンヌ国際映画祭新人監督賞を史上最年少受賞。その後も『火垂』(2000年)『沙羅双樹』(2003年)『垂乳女/Tarachime』(2006年)などで映画祭での受賞を重ねる。『殞の森』は2007年カンヌ国際映画祭でグランプリを受賞。その後、『七夜待』(2008年)、『玄牝ーげんびんー』(2010年)を監督し、「なら国際映画祭」エグゼクティブディレクターを務めた。新作『朱花の月』は2011年9月公開。



木下雄介(映画監督)

1981年東京都生まれ。早稲田大学の映画サークルで自主制作した『鳥籠』(2002年)が第25回びあフィルムフェスティバル/PFFアワード2003にて準グランプリと観客賞をダブル受賞。第15回PFFスカラシップの権利を獲得し『水の花』(2005年)で長篇デビューを果たす。



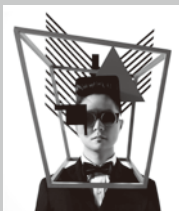
第 3 回 2011年10月1日(土) 3:30pm-6:40pm インターナショナルイズされ続ける日本の未来を綴る、プロフェティック・ムービー

『スワロウテイル』(1996年、岩井俊二監督) 148分・35mm・カラー

VERBAL氏(DJ、音楽プロデューサー)がセレクト&解説 聞き手:窪田崇監督(『イエスタデイズ』『キミとボク』他)

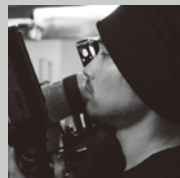
VERBAL(DJ、音楽プロデューサー)

m-floでの活動の他、TERIYAKI BOYZ®のメンバーとしても活躍しており、Pharrell、Kanye Westなど、海外のアーティストとも交流が深い。昨年よりDJとしても飛躍を遂げ、そのスタイルはファッション界からの注目も熱く、自身のジュエリーブランド“AMBUSH®”等も手がける。新たに立ち上げた KOZM AGENCYの代表として、様々なアーティスト/プロデューサーのマネージメントも始める。



窪田崇(映画監督)

1977年生。初長篇映画『イエスタデイズ』(主演・塚本高史)が2008年全国公開。最新作は映画『BADBOYS』(主演・三浦貴大)、映画『キミとボク』(主演・中村蒼)。他、代表作に『リフレインが叫んでる』(主演・本仮屋ユイカ)、『Memoir〜メモワール〜』(主演・蒼井優)等の短篇映画、Mr.Children、スガシカオ、SEAMO等のPV、「彼らの海・VIII」、「劇団演技者。」等の民放ドラマ。



■会場=小ホール ■定員=151名

■参加料

●当日参加料:大学・高校生 500円/一般 1000円/小・中学生、障害者(付添者は原則1名まで) 500円

●当日券(当日・当該回のみ有効)は、会場受付にて各回上映30分前から開映時刻まで販売します。

●前売参加料(日時指定・全席自由席):800円

●前売券は、8月27日から各上映日の2日前までチケットぴあ[全国のチケットぴあ店舗、サークルK・サンクス、セブンイレブンでの直接購入またはインターネット(<http://t.pia.jp/cinema/>)]にて販売します(Pコード558-346)。電話予約(0570-02-9999)は各上映日の5日前までの受付となります。フィルムセンター窓口での販売はございません。

●前売券は指定の日時のみ有効で、払い戻しはできません。

■発券=地下1階受付

●開場は開映の30分前から行い、定員に達次第締切となります。

●学生、障害者の方は、証明できるものをご提示ください。

●発券は各回1名につき1枚のみです。

●開映後の観覧券の販売はいたしません。

お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600

CARTE BLANCHE ホームページ:

<http://www.cartelblanche-movie.com/>

大ホール(2階)



第33回



PIA FILM FESTIVAL

ぴあフィルムフェスティバル

The 33rd Pia Film Festival

9月20日(金)-9月30日(金) ※月曜日は休館

共催:

PFFパートナーズ ぴあ ホリプロ /  
UNI/JAPAN 公益財団法人 ユニジャパン

特別助成:

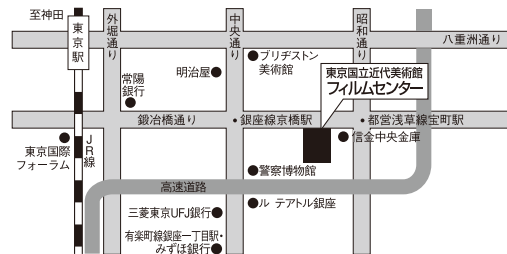
一般社団法人 映画演劇文化協会

<http://pff.jp/>

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6



交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分